SITC International Holdings Co.,LTD.

AS REPORTED BY KAIJI PRESS

「海事プレス社が報じたSITC」をピックアップ。

SITCの日本法人が設立されてから20年。海事プレス、CARGOには、さまざまな記事が掲載されています。

SITCジャパン、東京事務所開設

山東省国際貨運代理公司（SITC）は東京駐在員事務所を移転し、7月2日から新事務所で営業を開始する。これまでの中国本社の駐在員事務所から、SITCの日本総代理店であるSITCジャパン（本社＝神戸）の東京事務所へと体制を変更した。東京事務所長は駐在員事務所長だった呂開献氏が務める。

海事プレス 〈日刊海事プレス・2001年6月29日掲載〉

山東省海豊国際貨運（集団）公司
楊 紹鵬 総裁

「精・専・特・新」を基本に会社経営
日中航路船社は少数化、提携拡大へ

山東省海豊国際貨運（集団）公司は中国・山東省の青島に本拠を置く運輸企業集団で英文名はSITC（HOLDINGS）CO.,LTD。グループの主要業務は海運業、フォワーディング業、貨物自動車運送業、貨物列車運送業、航空貨物代理店業など多岐にわたる。うち、海運業はSITCコンテナラインズが日本／中国航路を中心に実施中だ。サービス網の拡張や、新造船の整備などでその名を耳にすることが多くなったSITCグループをけん引する44歳の若き経営者、楊紹鵬総裁に急成長の秘密、今後の方針などを聞いた。

CARGO May 2000 ● 2

■トップインタビュー／山東省海豊国際貨運（集団）公司 楊紹鵬総裁

CARGO 〈月刊CARGO・2000年5月号掲載〉

SITCジャパン 設立10周年記念パーティー

SITCグループは9日、SITCジャパンの設立10周年を記念し、都内でパーティーを開催した。楊現祥総裁は「SITCグループは1991年に発足し、今ではグループ全体で1500人、SITCジャパンで30人の社員を抱える。外航コンテナ航路、内航、ロジスティクス、ターミナル、船舶管理、船主業と6つの事業が柱だ。今後も、顧客の満足度向上に全力を挙げていく」とあいさつした。

海事プレス 〈日刊海事プレス・2005年12月13日掲載〉

2004年7月9日 海事プレス 第三種郵便物認可

ＳＩＴＣジャパン、呂開献新社長にインタビュー

顧客・副代理店と関係深めグループ全体に貢献

来月に東京へ本社移転、顧客密着のサービス提供

ＳＩＴＣジャパンの新社長にこのほど、同社の副社長だった呂開献氏が就任した。ＳＩＴＣジャパンはＳＩＴＣグループの船社部門、ＳＩＴＣコンテナラインズの日本総代理店。先月には、子会社でＳＩＴＣロジスティクスの日本窓口である海豊と完全に分離・並列化し、それぞれが独自の活動をする体制に改めた。また、ＳＩＴＣジャパンは来月、本社を神戸から東京に移し、新オフィスで業務にあたる。多くの荷主が集まる東京に本拠を置くことで、より顧客に密着したビジネス活動を展開していく。呂社長は「ＳＩＴＣグループの一員として、日本において顧客と一層緊密な関係を築くとともに、多くの副代理店と協調していくことで、本社の利益を最大化していきたい」とコメントした。

ＳＩＴＣコンテナラインズは山東省青島に本社を置く中国船社。日中航路では第２位のコンテナ取扱高を誇り、昨年は約47万ＴＥＵを輸送した。当初は日本／華北航路が中心だったが、近年は急速にサービス地域を拡大。昨年は日本／華南サービスを開始し、今年６月からはタイ・フィリピンなど東南アジア向けサービスを開設するなど、急成長を遂げている。

呂社長の発言要旨は次のとおり。

▷ＳＩＴＣは1992年に関西航路で日本サービスを開始し、その後、1998年に関東サービスを開始した。東京にオフィスを開設したのは３年前の2001年。このため、関西は関東に比べてより基盤作りが進み、顧客との緊密な関係を築いている。このため、物流部門の窓口である海豊の本社を引き続き神戸に置くことで、荷主からの多様な要望に、より柔軟に応えていく。一方、近年では関東への配船も増え、関東サービスの比重が高まってきた。また、東京は日本の首都として多くの荷主が集まっている。このため、ＳＩＴＣジャパン本社を東京に移し、より顧客に近い場所で活動を展開することで、関西と同様の基盤・枠組み作りをさらに推進していく。今後、荷主の需要に対して増便や再編を検討し、今年は年間取扱高60万ＴＥＵを達成する見通しだ。

▷ＳＩＴＣジャパンの役割は、日本での活動を通じて本社の長期的戦略・経営に積極的にかかわり、手助けをしていくことだと考えている。そのため、日本において数多くの副代理店とこれまで以上に協力していくと同時に、顧客との関係をさらに深めていく方針だ。本社を東京へ移転することで、中小の荷主はもちろんのこと、大手荷主に対しても積極的にアピールしていきたい。ＳＩＴＣは10年後にメガキャリアの仲間入りをするという、高い目標を掲げている。日中間サービスから始まった船社として、より荷主の立場に近い、顧客本位のサービスを提供するメガキャリアを目指すつもりだ。ＳＩＴＣジャパンは日本総代理店として、本社の一部に過ぎないが、本社の長期戦略に役立つ情報、顧客の需要を伝え、利益最大化に貢献していきたい。大切なのは、今のマーケットの中で、自分の会社がどういう存在であるのかを常に忘れないことだ。今の自分たちにふさわしいサービスを提供していくことで、堅実に成長していきたい。

▷ＳＩＴＣのサービスは今後、華南・香港を基点として、東南アジアなどアジア域内サービスの強化に重点を置いていく。これまでは日中サービスのみだったが、先月、初のタイ・フィリピン向けサービスを、日本と中国からそれぞれ開設した。アジア域内各国のＦＴＡ（自由貿易協定）締結に伴い、今後もアジア域内トレードは大きく成長していくだろう。華南・香港を中心にトランシップなどを通じてアジア各地域を結んでいく。また、カバー範囲が広くなるので、荷主にとっても多くのオプションが利用可能になると思う。ＳＩＴＣジャパンは、日本に寄港しないサービスについても、日本側でのＢ／Ｌ発行などを通じて、日本の荷主の需要に応えていきたい。日本の荷主は極めて成熟しており、優れたセンスやビジネス感覚を備えている。そうした荷主を満足させることのできるサービスを提供するのがＳＩＴＣジャパンの役割でもあり、それによってＳＩＴＣ全体のレベルアップにも繋がっていくと考えている。（聞き手：小堺祐樹）

18

■SITCジャパン・呂開献新社長にインタビュー

海事プレス 〈日刊海事プレス・2004年7月9日掲載〉

SITC大阪で新造船竣工と支店開設の祝賀会

SITCグループは9月29日、大阪で新造コンテナ船“SITC Tianjin”の竣工および大阪事務所の支店昇格を記念した祝賀パーティーを開催した。楊現祥総裁は「SITCの日本航路は、日中初のウィークリーシャトルサービスとして関西から始まった。SITCの中でも依然として重要な位置を占めており、これからも良いサービスを提供したい」とあいさつした。

海事プレス 〈日刊海事プレス・2006年10月3日掲載〉

海運編 ● 海上コンテナトレード

顧客志向でアジア展開推進

SITCコンテナラインズ

ＳＩＴＣコンテナラインズは２００９年以降、積極的にアジア展開を進めている。顧客志向に基づき、多頻度・網の目サービスを展開している。同社の昨年のコンテナ取扱量は全体で初めて２００万ＴＥＵを突破。そのうち近年は、日中航路の比率に比べてアジア域内での取り扱いが多くなっているようだ。

航路網の拡充のほか、アジア域内航路への投入を目的とした１８００ＴＥＵ型船14隻を台湾国際造船（ＣＳＢＣ）に発注しており、今年中にそのうち12隻が竣工する。コンテナ船としては初めて剣型と呼ばれる特徴的な船首形状を採用しており、燃費効率の向上とＣＯ２排出量の削減を実現している。タイのバンコク港にも入港できる船型で、現在運航中の用船と切り替えることで競争力強化を図る。

「ＳＩＴＣのアジア展開は日本が主導していく」と話すのはＳＩＴＣジャパンの呂開献社長。アジア現地でのサービス品質の向上も図っている。同社は12年２月にタイに日本人駐在員を置き、今年４月にはベトナムにも配置した。「駐在員が主導して、現地法人に日本コンセプトを伝授することで、日系顧客のアジア域内のニーズに応える。日本からもバックアップしていく」（呂社長）方針だ。これにより安定・安心なサービスを提供していく。

加えて近年、力を入れているのが地方港への展開だ。例えば日本側では、川崎港に週４便の多頻度サービスを運航している。「顧客のニーズに合わせたサービスを展開できている。川崎を成功事例に、需要があれば新たな地方港を開発したい」方針だ。東南アジア側でも地方港開拓を進めている。フィリピンのバタンガス、スービック、セブ、カガヤンデオロや、インドネシアのアウトポートなどへの寄港を増やしている。呂社長は、「東南アジアの地方港は中国発着の需要が強いが、日系顧客のニーズにも対応していく」としている。

駐在員主導で日本品質

ＳＩＴＣのアジア展開のソフト面での核となる駐在員の配置。タイの村上浩樹駐在員と、ベトナムの稲田勝一駐在員がメッセージを寄せた。

タイ　村上駐在員

「09年12月に現地法人として設立したＳＩＴＣコンテナラインズ（タイランド）は、今年、実質５周年の節目を迎えました。10年当初週２便、年間のコンテナ取扱量は輸出入合わせて６万ＴＥＵほどでしたが、14年度では、週９便体制、25万ＴＥＵ超を達成しました。この間、サービス品質の向上に注力し、14年末にはタイ国政府商務省国際貿易振興局から、当社の規模クラスにおいて、最優秀コンテナ船社賞に選出いただきました。お客さまのご指導とご援助の賜物です。深く感謝します。

今後も、ますますアジア域内のサービスを拡充し、利便性の向上に努めてまいりますので、変わらぬご指導とご鞭達をお願いします」

村上駐在員と日系アカウントチームのスタッフ

ベトナム　稲田駐在員

「15年末に予定されている『アセアン経済共同体』の発足。そして、18年に向けて進められている域内輸入関税撤廃。アセアン地域の注目度が、ますます高くなっています。そのアセアン経済共同体の加盟国で中心国の一つであるベトナムで、日本人会、日本商工会などに参加されている企業は約１４００社、加盟していない企業を含めれば１５００社を超えているといわれています。

ＳＩＴＣは、15年４月にタイに続いて２人目の日本人駐在員をベトナムに配置しました。ＳＩＴＣは、ベトナムで日系企業のニーズに対応し、日本的なサービスを提供することが最大の役目と考えています。そして、われわれのサービスの質を上げるために、この４月からＳＩＴＣベトナムハイフォン本社で駐在員による週２回の日本語教室を開始しました。これからもイントラアジアの輸送網を拡充し、さらに日本的サービスを確立し日系企業の要望に応えるべくＳＩＴＣベトナム一丸となって取り組みます」

稲田駐在員による日本語教室

日刊CARGO 臨時増刊号 アセアン物流特集 52

■SITCコンテナラインズ、顧客志向でアジア展開推進

日刊CARGO 〈日刊CARGO臨時増刊号「アセアン物流特集」・2015年7月掲載〉

SITCグループ、香港証取に上場

中国の民間物流グループ最大手、SITCグループは6日、香港証券取引所に新規株式公開（IPO）した。楊現祥CEOは、傘下のSITCコンテナラインズ向けの船隊整備に関し、主力船型の1000TEU型船25隻を3年以内に新規調達する計画を表明。サービス面では、日本と東南アジアを結ぶ直航サービスの増設を検討中で、その足掛かりとなる日本―華南航路を近く新設する方針を示した。

日刊CARGO 〈日刊CARGO・2010年10月29日掲載〉

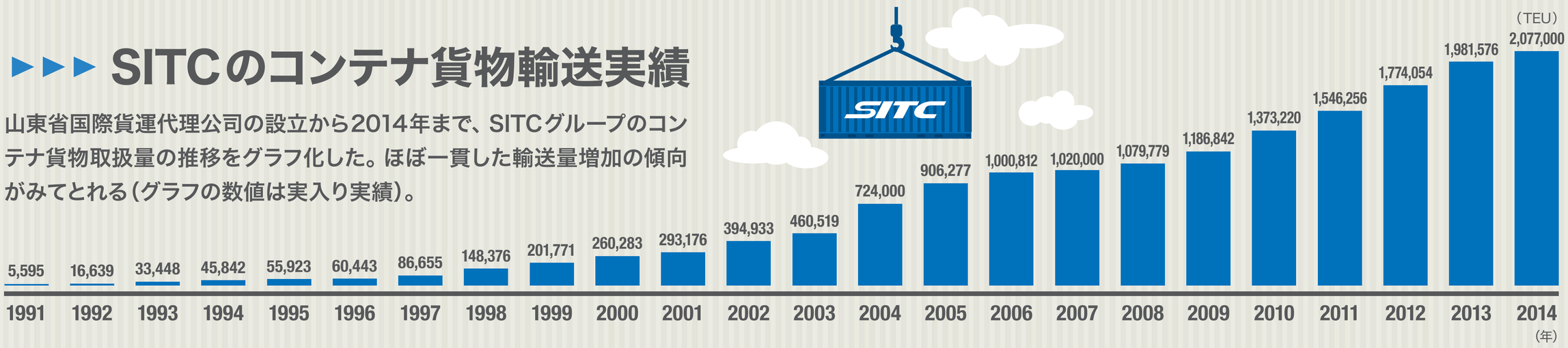
SITCジャパン呂社長が「がんばれニッポン！」

SITCジャパンは17日夕、東日本大震災の被災地復興支援策の拡充検討などを含む「がんばれニッポン！」と題した呂開献社長のメッセージを公表した。呂社長は、「震災はまだ進行中だが、日本社会や日本人の地震後の対応に敬意を表したい。公私にわたってお世話になってきた日本に、これから大いに恩返させていただきたい。頑張れ、ニッポン！日本、加油！」と結んだ。

海事プレス 〈日刊海事プレス・2011年3月22日掲載〉

▶▶▶ SITCのコンテナ貨物輸送実績

山東省国際貨運代理公司の設立から2014年まで、SITCグループのコンテナ貨物取扱量の推移をグラフ化した。ほぼ一貫した輸送量増加の傾向がみてとれる（グラフの数値は実入り実績）。



※パネル内の社名は基本的に、掲載時のものを使用しています。